

# 山形大学と地域

## 山形大学の創設

山形大学は、1949年(昭和24)に山形県内に置かれていた高等教育機関である山形高等学校・山形師範学校・山形青年師範学校・米沢工業専門学校・山形県立農林専門学校を母体として、文理学部・教育学部・工学部・農学部の4学部を有する新制国立大学として開学しました。現在は人文社会科学部・地域教育文化学部・理学部・医学部・工学部・農学部の6学部と6研究科からなる、東日本でも有数の総合大学です。

山形県は村山<sup>むらやま</sup>・置賜<sup>おきたま</sup>・庄内<sup>しょうない</sup>・最上<sup>もがみ</sup>の4つの地域に分かれています。山形大学のキャンパスは、村山地域<sup>むらやま</sup>に小白川<sup>こしらかわ</sup>キャンパス(人文社会科学部・地域教育文化学部・理学部)、飯田<sup>いいた</sup>キャンパス(医学部)、置賜地域<sup>おきたま</sup>に米沢<sup>よねざわ</sup>キャンパス(工学部)、庄内地域<sup>しょうない</sup>に鶴岡<sup>つるおか</sup>キャンパス(農学部)が位置しています。キャンパスが分散しているのは、それぞれの学部のルーツとなった学校がそ



■ 1949年に公募によって生まれた校章(『山形大学五十年誌』)

れぞれの地域にあったことに由来しています。

それぞれの学部のルーツとなった学校や、山形大学設立後に新しく創設された医学部は、いずれも地域と密接な関わりをもって誕生しました。

## 地域とともに歩む

1949年に山形大学が設立されるにあたっては、通則(のちの学則)が定められ、その第1条に目的・使命として「本学は、教育基本法に則り、学術文化の中心として広く知識を授けると共に深く専門の学術を教授研究し、知的道徳的及び応用的能力を展開せしめ、平和的、民主的な国家社会の形成に寄与すると共に地方産業及び文化の向上に貢献するを目的とする」と掲げられました。

21世紀を迎えるにあたり、山形大学においては創設50周年を機に、1999年(平成11)に大学に置かれた大学改革特別委員会において「山形大学のあるべき姿」が審議されました。その結果として、①個人の尊厳を重んじ真理と平和を希求する人間の育成と普遍的にして個性豊かな文化の創造を目指す教育の実現、②「自然と人間の共生」という哲学に支えられた学術研究、③教育研究機能の還元として地域社会に開かれた大学の推進という三本柱を使命とすべきことが打ち出されました。この考え方は、2015年(平成27)に「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」という

3つの言葉に表現されました。

2022年(令和4)には山形大学将来ビジョン「つながちから。山形大学」を策定し、3つの使命を継承しつつ、新たに「共育・共創・共生」を掲げ、「山形大学は、あらゆる垣根を越えて、人と人、知識と知識を縦横無尽につなぐちからで、新時代を切り拓く人材と新たな知を創出し、多様な人々が出会い活躍する「コモンズ」として、地域から愛され、地域と共に発展する大学になります」と宣言しました。



■ 2001年に公募で制定されたシンボルマークにロゴタイプを加えた2016年制定のロゴマーク

山形アーカイブ実行委員会